

2020年度、コロナに対する本協会の姿勢（開幕大会等を計画・実施するに当たって）

新型コロナウイルスのために、昨年度末から今まで協会の活動はほぼ潰されてしまいました。総会だけは皆様のご協力により書面決議という緊急手段により終える事が出来ましたが、成立した今年度行事予定は、ご承知の通りことごとく中止となってしまいました。

しかしながら5月25日、ようやく緊急事態宣言が解除され、体育館使用のメドが立ってきました。幸運にもオリンピックパラリンピックの延期によって空いた時間と場所を利用し、8月2日塩浜市民体育館にて、

「令和2年度開幕ダブルス大会（コロナなんかに負けない!第44回春季大会中止代替大会）」を計画実行するに至りました。

そこで本協会としてのコロナに対してどう向き合うかを考えてみました。

もし2者の対決において、その結果に勝ち負け引き分けという3通りがあるとしたら、私たちは医療関係団体ではありませんから、コロナに勝つことは不可能です。かといって負けるわけにはいきません。すなわち『負けない』ことが重要で、これが今大会の副題の根拠です。

ところで開催するかしないかの判断ですが、負けないことを確実に実現するなら感染機会をなくすために開催しないという選択になります。しかしこれでは競技団体として存在目的が奪われます。

そもそも私たちは医療の専門家ではないのですから、開催するかしないかは体育館の使用の可否に準ずるのが最も妥当な判断だと考えます。行政の出す緊急事態宣言や体育館閉館措置等は、医療の専門家の判断も含めてのことでしょうから。

次に、開催するとなった場合にはどのように感染対策するかですが、これについては「できる範囲内のことは全てやる」、という考えでおります。対策には消毒液、検温計等の物品の準備が必要であり、当日の会場においては3密回避のための工夫において参加者の方にはご不便をおかけすることになります。また各クラブが大会に参加申し込みするための練習や集約の時間が確保されているかということも考慮しなければいけません。そのための時間は、大会開催日の約1ヶ月前には体育館閉館が解除されていることが必要だろうと考えます。このような観点から6/20,27の団体戦夏季大会は中止とさせて頂きました。

また、一つ一つの対策の必要性については、これはやるべきだとか、そこまでやる必要はないとかの様々な意見の噴出も予想されますが、「できることは全てやる」という方針ですのでご理解とご協力、よろしく申し上げます。

市川市バドミントン協会